

令和8年度病害虫発生予察注意報第2号

令和8年4月22日
鳥取県病害虫防除所

注意報の概要

県内の麦類において、赤かび病の発生に好適な気象条件が続くことが見込まれている。本病が多発する恐れがあるため、防除の徹底が必要である。

病害虫名：赤かび病

- 1 対象作物 麦類（大麦、小麦）
- 2 発生地域 県下全域
- 3 発生量 多い

4 注意報発令の根拠

- (1) 赤かび病は、曇雨天及び高温により発病が助長される。4月以降、本病の感染に好適な気象条件で推移しており、孢子飛散好適日が複数回連続して発生している。
- (2) 中国地方1か月予報（4月16日発表）によると、降水量は平年並か多く、気温は高く、平年と比べ晴れの日が少ないと見込まれており、赤かび病の多発が予想される。

5 防除上注意すべき事項

- (1) 赤かび病の発病によって収量や品質が低下するばかりでなく、かび毒の基準値を超過するほ場では出荷できなくなる可能性もあるので、すべての麦種で2回防除を徹底する。
 - ア 二条大麦
(ア) 現在、現地ほ場の大半は1回目（穂ぞろい期10日後頃）の防除を終えている時期ではあるが、まだ実施していない場合は速やかに薬剤を散布する。
(イ) 発病抑制及びかび毒低減を目的とした2回目防除を1回目防除の7～10日後頃に行う。
 - イ 小麦
(ア) 現在、現地ほ場の大半が開花始めから開花期を迎えていることから、この時期の防除を確実に実施する。すでに開花期を過ぎているほ場では速やかに薬剤防除を行う。
(イ) 発病抑制及びかび毒低減を目的とした2回目防除を1回目防除の7～10日後に頃に行う。
 - ウ 六条大麦
(ア) 小麦に準ずる。
- (2) それぞれの防除時期の使用農薬の例は表1を参考とする。麦類赤かび病の主要防除薬剤は表2を参考とする。なお、水和剤、フロアブル製剤、ゾル製剤を地上散布する場合は、必ず展着剤を加用する。

表1 ムギ類の赤かび病の防除時期及び使用農薬（例）

	麦種	防除時期	使用農薬（例）
1回目 （発病抑制）	二条大麦	穂揃期の10日後頃	シルバキュアフロアブル または ワークアップ粉剤DL
	小麦	開花を始めた時期～開花期	
2回目 （発病抑制） （かび毒低減）	二条大麦	1回目散布の7～10日後	トップジンM水和剤 または トップジンM粉剤DL
	小麦	1回目散布の7～10日後	

- (3) 薬剤防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する（表2）。特に小麦、大麦で農薬使用基準の異なる薬剤が多いので、注意する。また、周辺ほ場への飛散防止対策を講ずる。

- (4) DMI 剤 (FRACコード: 3、シルバキュアフロアブル、ワークアップ粉剤DL等) は耐性菌が発生しやすいので、2回以上防除を行う場合は連続使用を避ける。
- (5) 刈遅れや倒伏により麦が降雨にあたると、かび毒産生を助長する原因となるため、適期に確実に収穫する。

表2 麦類の赤かび病の主要防除薬剤 (令和8年4月22日現在の農業登録内容)

農薬名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	成分 (FRACコード)
シルバキュア フロアブル	2,000倍	大麦: 収穫14日前まで	2回以内	テブコナゾール (3)
		小麦: 収穫7日前まで	2回以内	
ワークアップ フロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	メトコナゾール (3)
ワークアップ 粉剤DL	3kg/10a			
トップジンM 水和剤	1,000 ~1,500倍	大麦: 収穫30日前まで	3回以内 (出穂期以降は1回以内)	チオファネート メチル (1)
		小麦: 収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)	
トップジンM ゾル	1,500倍	収穫14日前まで	大麦: 3回以内 (出穂期以降は1回以内)	
	1,000 ~1,500倍		小麦: 3回以内 (出穂期以降は2回以内)	
トップジンM 粉剤DL	4kg/10a	収穫14日前まで	大麦: 3回以内 (出穂期以降は1回以内)	
			小麦: 3回以内 (出穂期以降は2回以内)	
ミラビス フロアブル	1,500 ~2,000倍	大麦: 収穫14日前まで	2回以内	ピジフルメトフ エン (7)
		小麦: 収穫7日前まで		

<お問い合わせ先>

鳥取県病害虫防除所 (鳥取県農業試験場内、電話: 0857-53-1345)

この情報は、鳥取県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、<https://www.pref.tottori.lg.jp/boujosyo/> です。

